

平成 23 年度第 2 回新潟市清掃審議会会議概要

開催日時	平成 23 年 6 月 8 日（水）午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分	
会 場	新潟市役所白山浦庁舎 7 号棟 4 階 405 会議室	
出席者	出席委員	菅原会長、藤井副会長、菊野委員、小林委員、松原委員、熊田委員、小松委員、坂田委員、高野委員、内藤委員、武田委員、山下委員 橋本委員 計 13 名 (欠席 椎谷委員、竹林委員)
	事務局	環境部長、廃棄物政策課長、廃棄物対策課長、 廃棄物施設課長 ほか
主な議事	1 開会 2 議題 (1) 基本理念など計画の基本的事項の修正について (2) 家庭系ごみの分別収集制度について (3) 家庭系ごみのさらなる減量施策のあり方について (4) 事業系ごみに関する制度について(説明) 3 連絡事項 4 閉会	
主な議題等	<審議の進め方> それぞれの議題について資料に基づき事務局が説明を行った後、審議委員からの意見・質問を受け審議を進めました。 <議題> 基本理念など計画の基本的事項の修正について (現行基本計画冊子 P 27) 基本理念の前文 1 段落目「これまで私たちは、大量の資源を浪費し大量の不用品をごみとして排出して、豊かで便利な生活を享受してきました。」について、「浪費」という言葉は違和感がある。大量生産・大量消費といった言葉を使うことは多いが、	

適切な経済活動により生じたものを「浪費」というのはいかがか。別の言葉に変えた方がよいのではないか。また、「便利な生活を享受した結果、大量のごみが排出された」と考えるのが自然で、順序が逆ではないか。

基本理念の前文2段落目「～危機的な状況に直面しており、「環境の世紀」といわれる今日において、循環型社会へ向けた取り組みの強化が求められています。」について、近年生物多様性は国をあげての取り組みが行われているが、危機的な状況に直面しているのは人間を含めた生物、つまり「いのち」である。何が危機的な状況に直面しているのか明記した方がよいのではないか。

大量生産・大量消費というこれまでの考え方を見直し、より豊かに、より便利にといった基本的な価値観を転換することが必要と考えられるので、そのようなニュアンスも盛り込むべきではないか。

市～ 様々なご意見をいただいているが、本日結論を出すというわけではなく、今後答申をいただき、素案の段階でご意見を踏まえた文書をお示しして修文していくという方向でお願いしたいと考えている。

市～ 基本理念の「市民・事業者・市の協働のもと、ともに作る環境先進都市」については、新潟市総合計画との整合もあることから、修正せずに進めたいと考えている。

(現行基本計画冊子P32)基本方針1で「～自発的に取り組めるような体制作り」とあるが、前回、市民の分別ストレスについての話もあったのに関連して、「市民が取り組みやすい仕組みの構築」という文言も入れてはどうか。

市～ そのような視点は重要と考えられる。

会社で温暖化に係る取り組みを行ったが、CO₂の排出量の目標値は市民目線からすると分かりにくい。目標を立ててもそれを達成するための方策が限られているため、市民からするとごみ量だけで十分なのではないか。

CO₂を目標に入れた場合、その算定方法はどのようになるのか。

市～ 焼却施設から出るCO₂を算定することとなるが、他の部門で行っている地球温暖化対策の計画があって、それとリンクするかたちになると考えている。

基本理念の「環境先進都市」というのはどのようなことをイメージして設定しているのか。

市～ 当時のイメージは政令指定都市の仲間入りをして間もなかったこともあり、他の大都市と肩を並べる、あるいは上を目指すというイメージで「環境先進都市」とした。

新潟市は広大な田園地帯と都市部が融合した政令市であることが特徴なのだから、それがイメージできるような理念になると良いと思う。

市民の声として市民農園などが近づくことなく、生ごみを使った堆肥を作ってもなかなか有効に使えないといった事情もある。このように、新潟市の特徴は農業が近い都市なので、ごみ処理についても農業部門との連携も視野に検討してはどうか。

市～ ご指摘のとおり生ごみの減量施策については、農業サイドともリンクして行う必要性があると考えている。

家庭系ごみの分別収集制度について

他都市の分別制度をみると、すべての品目を週1回収集しているところもある。やはり、隔週で分別品目が異なると分別間違いも発生しやすくなるし、ストレスになっていると考えられる。多少コストがかかっても、市民に分かりやすい分別制度とするため、週1回の分別収集を実施できるよう検討してもらいたい。

市～ 相模原市の場合、びん、缶、ペットボトルをまとめて収集してそれを施設で分別し、再度資源化施設へ運ぶということを行っている。新潟市の場合、市民に分別していただいて、そのままりサイクル施設に運んでいるので、相模原市の場合は当市に比べかなりの手間とコストがかかっていると考えられる。

資源ごみのなかで飲食用缶というのがありますが、スプレー缶も同じ缶なので分別で悩んでしまうこともある。同じように処理できないのか。

市～ スプレー缶は中にガスが入っており爆発の危険性があるため、有害・危険物として分別をお願いしている。分別収集されたスプレー缶は、専用の装置を使って安全に処理している。

プラスチック製容器包装（資源）とプラスチック製品（燃やすごみ）の分別が未だに分かりにくいので、周知が必要ではないかということと、プラスチック製容器包装の収集日が週1回では少ないのではないかと思うがどうか。

市～ プラスチック製容器包装の分別について多くの市民からご質問をいただくが、これは容器包装リサイクル法に基づき分別収集しているもの。ご指摘のとおり分かりにくい点については、引き続き広報し周知を図っていきたいと考えている。また、プラスチック製容器包装の収集日を週2回に増やしてほしいという要望を過去にもいただいているが、これから排出抑制をより強くしていきたいという考えがあり、回収日を増やすことにより資源であっても排出量が増える懸念があるため、週1回でご理解いただきたいと考えている。

さらなるごみの減量化のあり方としていちばん重要なのは排出抑制であり、そのためには市民や事業者の意識改革が必要。そのなかで、レジ袋というのがかなりごみになっていると思われるが、佐渡市ではすべて有料化している。新潟市においても将来的に検討してみてもどうか。

有害・危険物というと、例えば包丁や割れたガラスも危険物のイメージがあるため、分別を迷う原因になる。例えば個別にスプレー缶、ライターという呼称にして、もう少し分かりやすくしてはどうか。

家庭系ごみのさらなる減量施策のあり方について

長岡市で生ごみの分別回収を開始しメタンガス化しているという新聞記事もあったが、新潟市で行うのは難しいのか。

市～ 先ほど説明させていただいたとおり、施設的な問題等があり長岡市と状況が異なるということと、新潟市全域で生ごみを分別するのは現時点では困難という認識。ただし、現在、亀田地区において市民の協力を得て生ごみの堆肥化事業を試行している。

古布・古着の拠点回収を始めているが、ステーションで回収できるようになれば、利便性の向上につながると考えられるがどうか。

市～ 平成22年度からモデル的に行っているなかで、非常に市民から好評をいただいていたため、平成23年度から拠点を3ヶ所から8ヶ所に増設した。ただ、古布・古着については、昨年度試行する際、行政が税金をかけて行うことで民業圧迫にはならないか、さらに市民が自発的に行っていることを阻害することにならないかといった議論があったため、引き続き拠点での回収を見守りたいと考えている。また、基本的にリユースを目的にしているため、雨に濡れると業者が買い取ってくれないという事情もある。

生ごみの分別について他都市の事例も調べていただいているが、メリット、デメリットがそれぞれあると思う。例えば、焼却施設でどれだけ助燃剤の量が減るとか燃焼効率がアップするといった数値で出していただけると検討がしやすいのだが。

市～ 検討させていただく。

低関心者に対する意識改革に力を注ぐことが重要ではないか。現在震災の影響で節電消費ということがいわれているが、ライフスタイルの見直しを進める中で、節電だけでなくごみについても関心を持ってもらうことが必要。回収日を増やして市民の利便性を向上し、行政がいたれりつくせり行うのではなく、回収日が少ないならどうやって排出を抑制するかといったことを、市民や事業者が自ら考えて自発的に行うような取り組みが必要ではないか。

生ごみの水切りについて、ある市町村では夏になるとスイカを風乾したりといった取り組みを慣習のなかで行っている。このような取り組みをサイチョプレスなどでもっと広報していけば良いのではないか。

クリーンにいがた推進員の皆さんは大変努力しておられるが、無関心者に対して声かけする等の取り組みが必要だと思う。ただ、顔見知りの方ばかりなので、指導の声かけがしづらいという状況もあると思う。

市民の利便性向上も大切だが、それと同時に排出抑制もしていかなければならない。そういったことを循環型社会に資するよう一体的に検討を進めていく必要があるのではないか。

ごみ処理施設の見学をより多くの方々に参加してもらう必要があるのではないかと。施設で行われている作業を見れば、分別により気をつけるようになるし、ごみへの関心もより深まると思う。

市～ 低関心者に対する意識啓発は非常に重要と考えているが、施設見学に参加される方は比較的意識の高い方が中心と考えられる。委員の皆さまから様々なお知恵を拝借し検討していきたいと考えている。

昨年6月に行ったごみ減量・リサイクル推進月間は、ごみステーションの早朝巡視や広報活動等を強化した良い取り組みだと思うので、ごみが増える時期を狙って毎年実施してもよいのではないかと。

市～ 本年度は時期をずらして10月に実施する予定としている。

施設見学は良い啓発になると思うが、平日しか実施されないので行ける人が限られてくる。休日も見学できるようになればより参加者の幅も広がるのではないかと。

市～ 施設の受け入れ態勢という点で充実しているとはいえない状況のため、休日の施設見学はなかなか困難ではあるが、さわやかトーク宅配便（出前講座）等で、今後、施設でのごみ処理工程を紹介するビデオを作製する等して、啓発を図っていきたいと考えている。

お祭りやイベントで割り箸や紙コップ、紙皿など膨大な量のごみが発生している。排出抑制を進めるためには、市としてもリユース食器の使用を促進していくことが重要ではないかと。

市～ 2009年の新潟国体のときにリユース食器の使用を促進する取り組みを行い、また、アルビレックス新潟の試合でも同じような取り組みが行われている。さらに、食べ残しもったいない運動なども実施しており、引き続き大きなイベント等で啓発していくことが重要と考えている。

スーパーなどで資源物の回収を行っているが、古紙や古布・古着といった資源物を回収できるようになると、消費者の視点からすると利便性も向上しストレス軽減にもつながるのではないかと。

市～ 現在、市ではスーパー等小売店に協力をお願いし回収しているもの（ペットボトル・乾電池）と小売店が自主的に回収しているもの（トレー・びん・缶）がある。以前、古紙をスーパーで自主的に回収しようとした際、周囲の自治会からの反発があった。新潟市は自治会での集団資源回収が盛んで、市民の方々が自主的に行われていることを助長していきたいと考えている。

事業系ごみに関する制度について（説明）

審議時間が足りなくなったため次回に先送りとなりました。

傍聴者

1名